

令和3年7月20日

令和3年度病害虫防除技術情報（第6号）

和歌山県農作物病害虫防除所

トビイロウンカの発生状況について

今年もトビイロウンカ（図1）の飛来が平年に比べて早く、飛来量も多い傾向です。本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも今後高密度となり、坪枯れ被害を引き起こす恐れがあります。定期的に発生状況を確認し、早めの防除を行ってください。

1. 対象作物 水稲

2. 対象地域 県内全域

3. 発生状況

1) 予察灯での誘殺

初誘殺は、紀の川市7月1日（平年7月21日）、上富田町5月14日（平年7月10日）、那智勝浦町6月23日（平年7月1日）であった。

また、紀の川市で7月上旬に2頭（平年0.4頭）、上富田町で5月中旬に1頭（平年0頭）、那智勝浦町では6月下旬に19頭（平年1.2頭）誘殺されるなど、本種が県内全域に多く飛来していると推察される（表1）。

2) ほ場での発生

7月中旬に、県内の一部ほ場で本種の幼虫が確認された（表2）。

4. 防除上の注意事項

- 1) 本種の発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。
なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。
- 2) 本種はイミダクロプリド剤、チアメトキサム剤、クロチアニジン剤、ブプロフェジン剤に対する感受性の低下が認められているので、防除薬剤の選定に注意する。
- 3) 育苗箱施用剤によるウンカ類の防除を行っていない場合、または感受性の低下が認められている成分を含む育苗箱施用剤を使用している場合は、速やかに防除を行う。
- 4) 粉剤、液剤の散布に際しては、本種は株元に生息するため、薬剤が株元に十分に到達するよう、なるべく出穂前に散布する。粒剤は、有効成分が根から吸収されるため、効果が現れるまで時間がかかる。
- 5) 防除薬剤については、最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。



図1 トビイロウンカ成虫
長翅型(左)、短翅型(右)



図2 トビイロウンカによる坪枯れ被害(令和2年9月)

表1 県内設置の予察灯によるトビイロウンカの誘殺数(頭)

		5月		6月		7月	
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
紀の川市	本年	0	0	0	0	0	2
	前年	0	0	0	0	0	4
	平年	0	0	0	0	0.1	0.4
上富田町	本年	1	1	1	0	0	1
	前年	0	0	0	2	4	143
	平年	0	0	0	0.2	0.4	16.1
那智勝浦町	本年	0	0	0	2	19	2
	前年	0	0	0	2	2	126
	平年	0	0	0.1	0.3	1.2	13.9

表2 トビイロウンカの発生状況(平成23年~令和3年、7月中旬)

		平成23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年 (本年)	平年
県北部	発生ほ場率 (%)	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	1
	25株当たり虫数(頭)	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.02
県中部	発生ほ場率 (%)	0	0	14	14	14	0	0	0	0	0	43	4
	25株当たり虫数(頭)	0	0	0.7	3.6	0.6	0	0	0	0	0	0.9	0.5
県南部	発生ほ場率 (%)	0	0	17	0	0	17	0	0	0	0	0	3
	25株当たり虫数(頭)	0	0	0.2	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0.1

注) ほ場における払い落とし調査 (調査ほ場数 : 県北部17、県中部7、県南部6)

和歌山県農作物病虫害防除所
電話 : 0736(64)2300